

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 23 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/23 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	34.8	106.3 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.2 m <sup>3</sup> /h	47.9	5.16 kPa g	A系:0.32 vol% B系:0.32 vol%
		給水系：約 3.0 m <sup>3</sup> /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.8 m <sup>3</sup> /h	52.0	0.24 kPa g	A系:0.20 vol% B系:0.19 vol%
		給水系：約 3.8 m <sup>3</sup> /h			

\*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/23 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.5
2号機	循環冷却システム	運転中	25.3
3号機	循環冷却システム	運転中	24.3
4号機	循環冷却システム	運転中	32

\*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	6/16 15:12 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	6/10 8:26 ~ 6/23 9:50 移送実施
6号機	6号機 タービン建屋	→ 仮設タンク	6/22 10:00 ~ 10:45 移送中止*

\*移送ポンプモータの不具合により、予定していた移送を中止。原因については現在確認中。

【4号機】・6/22～ 燃料取り出し用カバー設置のための地盤改良工事の一環として、防災ピットの撤去を行うために現場を確認したところ、同ピット内に海水または雨水と思われる滞留水(約90m<sup>3</sup>)を確認。同ピットの撤去を行うためには、滞留水を移送しなければならないことから、タービン建屋地下へ移送を実施。なお、移送は約1週間かけて実施する予定。

#### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/23 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H24/6/21 12:05 H1スキッド内のバルブ交換工事を行うために、セシウム吸着装置を停止。停止期間は約1ヶ月の予定。なお、バルブ交換工事期間中は第二セシウム吸着装置による処理を継続予定であり、滞留水処理、原子炉注水については問題ない。
- ・H24/6/23 10:15 頃 淡水化装置(逆浸透膜式)2において、水処理するための高圧ポンプグランド水を受けるポリタンクから水が溢れていることを、当社社員が確認。溢れた水は約 6.6 リットルであり、同装置の堰内にとどまっており、建屋外への流出はない。10:30、淡水化装置(逆浸透膜式)2を停止し、当該ポンプを隔離。水たまり付近の雰囲気線量率および水たまりの表面線量率はガンマ線、ベータ線ともに 0.1mSv/h 未満。その後、漏えいした水をサンプリングした結果、ヨウ素 131 が検出限界未満(検出限界値:  $7.0 \times 10^{-1}$  Bq/cm<sup>3</sup>)、セシウム 134 が  $2.6 \times 10^0$  Bq/cm<sup>3</sup>、セシウム 137 が  $3.9 \times 10^0$  Bq/cm<sup>3</sup>、全ベータが  $9.0 \times 10^4$  Bq/cm<sup>3</sup>であった。

#### <5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/6/18 9:54 5号機の補機冷却海水系について、6/18から6/28までの予定でストレーナ駆動部の修理のため、停止。これにより使用済燃料プール冷却系が停止するため、この期間中、使用済燃料プールの冷却は残留熱除去系により実施。その際、原子炉及び使用済燃料プールの冷却は残留熱除去系により交互に切り替えて実施するが、原子炉水温度は最大 60℃程度、使用済燃料プール水温度は最大 31℃程度と評価しており、温度管理の観点から問題はない。
- ・H24/6/23 10:05 頃 協力企業作業員が発電所構外での作業中にトラック荷台より降りる際、足を滑らせ落下し左足かかとを負傷したため、5・6号機救急医療室へ搬送。診察の結果、歩行不可能であり左足かかとの骨折の疑いがあるため、業務車にてJヴィレッジへ搬送した後、12:11、救急車にて総合磐城共立病院へ搬送。その後、病院の医師による診察を受けた結果、「左足かかと骨折」、全治3ヶ月を要する見込みと診断。なお、身体に放射性物質の付着はない。

以上